

虫垂炎、大腸憩室症、大腸内視鏡により摘出できない腺腫および大腸癌に施行されている。

腹腔鏡下大腸切除術のなかでは、技術的には容易な結腸部分切除から、大腸癌に対する、大きな血管処理を伴う D2 リンパ節郭清兼大腸切除など、手術式が検討されている。

癌に対する腹腔鏡下手術のなかで、大腸切除術は解剖学的特性により、系統的リンパ節郭清を en-block で行うことが可能のことより、腹腔鏡下胆囊摘出術と同様に現時点でもっとも minimally invasive treatments が適応と思われる。

手術適応は病変部位が直腸中部までの口側大腸、壁深達度では SM 癌を本法の適応としているが、進行癌への適応拡大には慎重である。Ports sites recurrence に対する対策を行うことより、比較的小さな PM 癌や高齢者には適応の拡大が可能になると思われる。

本学会では大きな血管処理を伴う D2 リンパ節郭清兼前方切除術を供覧する。症例は直腸 (Rs) の病変で SM massive と術前の超音波、内視鏡により診断された症例である。

20. 泌尿器科領域における minimally invasive treatments

(泌尿器科学) 八木澤隆・東間 紘

近年、泌尿器科領域において多くの疾患が minimally invasive treatments (MIT) によって治療されている。MIT の是非に関しても幾多の検討がなされ、多くは定着した治療法として普及、発展している。endourology と呼ばれる MIT に関連する泌尿器科の一分野も確立され、この領域の進歩はめざましい。ここでは最も大きな治療変貌を遂げている尿路結石症に対する MIT の現況と、最近われわれが行っている後腹膜鏡下の副腎腫瘍、腎腫瘍摘除術について紹介する。

1980 年、ドイツのミュンヘン大学において考案された衝撃波の結石への臨床応用から約 20 年が経過しているが、この間、さまざまな改良が加えられ、操作は簡便で破碎効果も大きいコンパクトな衝撃波装置が普及している。現在では尿路結石の 80~85% がこの体外衝撃波によって治療され、残りの 20~25% が経皮的、あるいは経尿道的に碎石されており、従来の開放手術の頻度はわずか 1% 以下となっている。Intracorporeal の結石破碎は内視鏡や破碎装置の進歩により、尿管内にとどまらず、腎内の結石に対しても可能となっている。さらに結石以外の疾患にも応用され、retrograde intrarenal surgery とも呼称されている。

従来、開放手術で治療された副腎腫瘍に対して腹腔鏡下での摘除術が MIT として一部の施設で施行されているが、われわれは後腹膜鏡下での摘除術を試み、良好な結果を得ている。有用な手技の一つとして広まるものと考えられる。

21. 血液浄化用ブラッドアクセストラブルに対する経皮的血管形成術 (PTA)

(第三外科学) 春口洋昭・佐藤雄一・

廣谷紗千子・三宮彰仁・川瀬友則・

内海 謙・石田英樹・小山一郎・

辻 和彦・中島一朗・渕之上昌平・

阿岸鉄三

透析治療の進歩により長期透析例が増加し、それともないブラッドアクセストラブルの維持・管理の問題が重要となってきている。限られた血管を少しでも有効に使う目的で、近年経皮的血管形成術 (PTA) をはじめとするブラッドアクセスインターべンション治療が行われている。当科では昨年より本格的に PTA を導入し、現在まで約 40 例に施行している。PTA の対象となった症例は、狭窄による血流不全や静脈高血圧が主であるが、閉塞例に対しても施行した。血管破裂が 1 例に認められ、手術を余儀なくされたが、それ以外は大きな合併症を認めず、概ね満足できる結果が得られた。ブラッドアクセスインターべンション治療としては、ステントやパルススプレーを用いた経皮的血栓溶解療法、新しい機器による経皮的血栓除去療法などが出現し、新たな展開が認められる。ここではこれらの治療法も併せて紹介したい。

22. 子宮鏡下選択的通水治療症例の臨床成績について

(産婦人科学, *杏林大学産婦人科)

齊藤理恵・安達知子・岩下光利*

卵管因子の 10~20% は卵管近位端閉塞と報告されている。当科では、子宮卵管造影 (HSG) で卵管閉鎖と診断された症例に対し、外来で子宮鏡下に卵管口にカテーテルを挿入し、子宮鏡下選択的卵管通水術を行っている。その成績を報告する。

【方法】子宮鏡下に卵管口を確認し、卵管内に約 1 cm 程カテーテルを挿入し、生理食塩水 10 ml を注入した。

【判定】注入時抵抗なく注入できたものを疎通性回復症例とし、一方、抵抗が大きく注入不可能なもの、あるいは注入圧を更に高めることにより、子宮内へ逆流したもの疎通性回復不可症例と判定した。

【結果】20 症例中、卵管口へ挿入不可能であった症例